特集　朝日小学校を振り返る

昭和 39 年（1964 年）当時の朝日小学校

令和５年度をもって１０８年の歴史に幕を閉じる朝日小学校。多くの児童の学び舎でありました。そこで、８月号から２回に渡って朝日小学校の歴史を振り返ります。

朝日小学校のはじまり

朝日小学校のお話しは明治時代の晩年から始まります。当時、去童地区（サルワラベ：現在の朝日）と姉去地区（アネサル：現在の大富）の通学区は日新尋常小学校（現在の新冠小学校）でした。しかし、開拓が進まない道の中で、近くても６㎞、遠い家だと 10 ㎞以上もある通学距離は、親として最大の悩みでした。

地域の入植が進むなか世帯数も増加し、この地区では学校の設置を望む声が高まりました。地域の方々は寄附を募り、校舎建築のための資金を集めて学校設置の要望を出しました。始めは学校設置が決定しましたが、教師を確保できず計画は中止となり、そのまま数年を過ごすことになりました。

しかし、状況は大正元年（1912 年）に変わります。姉去地区にアイヌ学校があり、そこには分け隔てなく去童地区と姉去地区の子ども達が通っていましたが、この学校が沙流郡貫気別に移転する話しが出てきました。

このままでは付近に学校が存在しなくなる危機が訪れましたが、同時にこの状況を受けて再び学校の設立が望まれるようになりました。

大正５年（1916 年）３月にアイヌ学校の移転が確定し、去童地区と姉去地区は協力して学校設立に向けて動きました。

まず、御料牧場から約２，１００坪の土地を無償で借りました。その後、寄付金を募り、当時の金額で約５００円の資金を集めて校舎を建築し、地域の方々は村に校舎を寄附しました。そして、大正５年６月 12 日に日新小学校去童特別教授場が開校し、これが朝日小学校のはじまりとなりました。

第９回（大正 14 年３月）卒業生
現在確認することができる最も古い卒業写真

朝日小学校の名称編遷

学校名は今も昔も「名称」と「学校の種類」で成りたっています。朝日小学校のはじまりとなった日新小学校去童特別教授場は、現代風に言うと「日新（現在の新冠小学校）」という名称の「小学校の去童（朝日）地区付属教室」という意味になります。

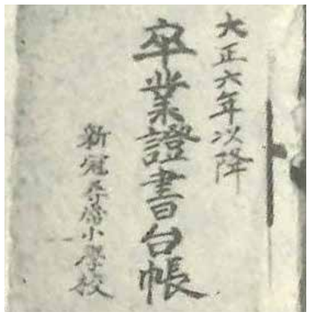
学校名が初めて変わったのは、大正７年（1918 年）６月６日になります。日新小学校からの独立が決まり小学校に格上げとなりましたが、新しい学校名は当時の地域名である「去童」を使わず、「新冠尋常小学校」となりました。つまり、かつては朝日小学校が「新冠小学校」と呼ばれていたということになります。

新しい名称が「新冠」となった理由に正式な記録がありませんが、当時、町の名前が付いた学校が存在しなかったためと考えられています。「新冠」という名称は昭和 26 年（1951 年）７月まで 33 年間続きました。

昭和 26 年８月から名称が「旭小学校」に変わり、昭和 29 年（1954 年）６月１日から字名改正により現在の「朝日小学校」に変わりました。「新冠」の名称を譲ったと書いた文書も残っており、「新冠小学校」という学校名に誇りを持っていた方もいたようです。

学校の種類は、大正７年の日新小学校からの独立以降、国の制度で呼び方が変わることがありましたが「小学校」という意味で統一されています。

しかし、昭和 25 年（1950 年）４月から新冠中学校去童分校が開校され、その後、昭和 49 年（1974 年）４月の中学校統合まで、朝日小学校と共に朝日中学校が存在したことは、朝日小学校の歴史を振り返るうえで忘れてはならない出来事となります。



朝日小学校 70 周年記念誌に掲載されていた卒業証書台帳
左に「新冠尋常小学校」と書かれている

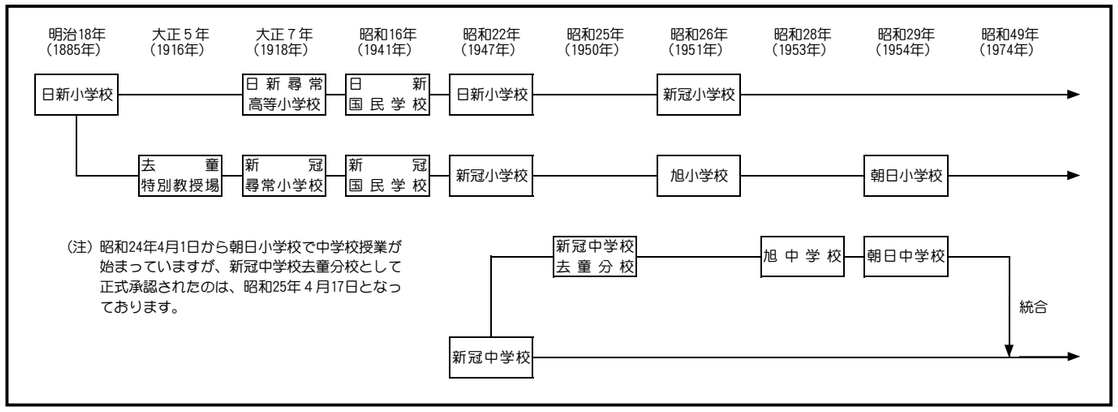
日新（現新冠）小学校の名称由来

『なぜ、先にあった日新小学校（現在の新冠小学校）が「新冠」という町の名称を使っていなかったのか？』と疑問を持った方もいるかも知れません。

日新小学校は明治 18 年（1885 年）に開校された新冠町で一番歴史がある小学校ですが、名称由来については正式な記録が残っておりません。

最も有力な説として、明治時代、新冠が「日高国新冠郡」と呼ばれていたことが、小学校の名称由来になったと言われています。

「日高国新冠郡」は現代風に言うと「日高管内の新冠町」という意味になります。それで当時の人達は、「日高国新冠郡」から「日」と「新」を使って日新小学校となったのではないかと考えられています。

本町にあった頃の日新小学校
（現新冠小学校）
昭和９年まで現在の本町多目的交流センター付近にありました

新冠町学校編遷表（一部抜粋）